

ほげい船 平成 31 年 1 月

新年を迎えて ―チャレンジの年に―

新年明けましておめでとうございます。今年が平成が 4 月で終わり、5 月には新しい元号に変わる事となっていますので平成最後の年となりました。職員の皆さんも気持ちも新たに平成 31 年を迎えたことと思います。さて、平成 30 年を振り返ってみると北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風の直撃など災害が多発し自然の驚異を実感させられた年でした。また、スポーツ界のパワハラ問題、大学の不正入試問題など以前からあったようですが、それが表に噴出し、私達が知ることとなりました。このことから人々がこれらの出来事を災いとして捉えたのか、その結果平成 30 年今年の漢字は「災」と決まりました。しかし、暗い出来事ばかりでなく平昌オリンピックにおける日本選手の活躍や医学の面では本庶佑先生のノーベル医学生理学賞受賞という明るい話題もありました。本庶先生が研究をする上で大切なことは好奇心 (Curiosity)、勇気 (Courage)、挑戦 (Challenge)、確信 (Confidence)、集中 (Concentrate)、継続 (Continuation) の「6 つの C」だと説明しています。この 6 つの C は研究以外にも私たちの行っている医療に通じるものがあり今年が病院の変革のため、新しいものに挑戦 (Challenge) したいと思っています。その一つとして病院運営に Total Quality Management (TQM) を導入し、医療の質の向上を図っていきたくて考えています。高知病院には以前より活性化委員会があり病院の活性化に努めてきましたが、この委員会を発展させ TQM に取り組むための組織に改変したいと思っています。TQM は産業界の製造現場での品質管理を目的に行われていた手法ですが、最近では品質が厳しく問われる製造現場の管理手法を医療現場に導入することで事故を未然に防ごうとする活動に拡がりをみせています。また、様々な医療行為を「品質」の視点で捉え、良質の医療サービスを患者満足度の向上や医療安全の推進に役立てようとする取り組みも進められています。つまり医療現場における TQM とは、全員・全体 (Total) で医療・サービスの質 (Quality) を継続的に向上させる (Management) ことを表しています。TQM 導入は病院の医療の質を向上させることが目的であり「職員一人一人が、その手法を身につけることによる、質的向上と改善を進める体質作り」と言えます。当院にとって TQM 導入は難しいことではありません。というのは TQM の実際の活動には Quality Control (QC) 手法を用います。皆さんもよく知っているように高知病院では従来から QC 活動に積極的に取り組み、機構本部から高い評価を受けております。ただ、すべての部署が参加していたわけではありませんので、これからは全ての部署ごとに QC サークルを形成し、個々の部署で具体的な問題を課題として解決に取り組み、そこで得られた効率化、改善などの対策を検討し実践することが要求されます。このように QC サークルは全ての部署に由来するものでこれら全体を包括するのが病院です。つまり TQM 活動は「全体と部分」「部分と全体」のバランスを考えながら行う総合的手法で、単なる QC に留まらない全体的な取り組みです。この活動に終わりはなく一度改善ができたからといってゴールとはい

えません。TQM は静的なものではなく、動的なものと理解し継続していくため PDCA サイクルを回して決して止めるべきではありません。TQM をうまく導入するには、何をテーマ、目標にするかが重要です。今年には TQM 導入に向け各部署で重要なテーマを選択し明確な目標を立て QC を実践していただきたいと思っておりますし、そのことで病院の質向上が進むものと期待しています。